

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基本的な知識の定着や、分野に差はあるが記述問題に取り組む生徒が増えている。
- ・実験結果を表やグラフにまとめ、判断し考察する生徒が増えた。

(2) 課題

- ・各学年の分野ごとの結果を考慮し、分析、推察などの思考力を向上させる改善に努める。
- ・計算して答えを求めることを苦手としている生徒の支援、改善に努める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値とあまり大きな差は無かった。基本となる知識・技能はある程度身についており、活用する力も目標値を上回っている。		
第2学年	基礎、活用ともに目標値に対して、正答率が大きく下回った。	全体的に目標値を下回った。基本となる知識・技能はある程度身についているが、それを活用する力が不十分である。	
第3学年	基礎の目標値は大きな変化が無く、活用の正答率が低かった。	全体的に目標値を下回った。基本となる知識・技能の観点の定着率が低い。	知識・技能の観点は目標を下回り、他の観点はほぼ目標値だった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「水溶液の性質」や電気の利用に関する問題の正答率がかなり低く、基礎的な事柄の理解・定着が不足していると考えられる。	基礎的な事柄から、それを発展させて考え、自分の意見を述べる力は比較的身につけている。	基礎的な事柄を、繰り返し反復して定着させるという姿勢が不足している。そのため、自信を持って発表したりすることが苦手である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「水溶液の性質」、「物質の状態変化」、「地層・地震」の正答率が著しく低い。物質や光の性質などの分野は、定着している生徒も多かった。	全体的に、基礎的な事柄の理解が不十分なため、それを発展させる力、特に音や力の分野の作図や記述問題で、考えを述べ、表現する力が不足している。	計算問題、とくに質量パーセント濃度や地震の揺れの伝わる速さの計算方法の理解が不十分である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「電流」「気象・天気の変化」に関する基本的知識が定着していない。植物や動物に関しての理解も含め基礎的な力が低い。	前線にともなう気象の変化や電流の大きさを求めることなどの力が不十分である。説明する記述力や数的な処理の力が低い。	知識および思考の観点での不足が、結果として本観点の不十分さにつながっていると考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おおむね内容を理解し、定着している。今後、基礎的な事柄をワーク等で繰り返し学習させる。単元ごとにワークを学習させ、小テストなどで確認をして内容の定着をはかる。	ワークの章末問題の応用に関する内容を単元ごとに考えさせ、実験の結果から分かったことを班で考察させて発表させる機会を多くしていくよう工夫する。	普段の授業より、身近な内容を関連づけ行くように心がけている。それを継続しながら、応用や発展的な内容にも触れ、科学に関する興味・関心を高めていくようにする。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水溶液や物質の状態変化、地震の分野について、基礎的な事柄を、単元ごとに繰り返しワーク等で学習し、小テストなどで確認をして、内容の定着をはかっていく。単なる受け身の学習ではなく、学習の進め方のアドバイスなども含めながら、意識して言葉かけを続け、授業展開を工夫する。	自ら考えて表現できるよう、実験の考察などを班活動で考えさせ、理解を深める。さらに、個々が意見を表現できるよう、レポートの評価まで行う。正解のない問いや、活用に関する問いを取り入れ、互いに刺激し合う授業展開にする。	実験器具の使い方を正しく理解させた上で、実験、観察の時間を多く取り入れていく。また、身近な現象を取り上げ、日常生活と関連づけさせる授業展開を心がけ、主体的に学ぶ態度が高まる状況を作る。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「電流」「気象・天気の変化」に関する知識に加え、多くの分野との関連付けなど複合的理解が進むよう、授業展開する。フラッシュカードや小テストの活用を試みる。	数値計算や、図示して説明する機会をより設け、個々がきちんと正解までたどりつけるよう授業づくりを行い、生徒が互いに刺激し合えるようにする。	実験器具の使い方を正しく理解させた上で、実験、観察の時間を多く取り入れていく。正しい理解や思考の下、身の回りの事象と関連付けながら授業を展開していく。